

## 地層処分セミナーin 横浜 開催結果

日 時：2017年2月25日（土）13:30～16:30

場 所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 横浜ランドマークタワー25F（横浜市）

主 催：原子力発電環境整備機構（NUMO）

後 援：経済産業省・資源エネルギー庁、日本経済団体連合会、日本商工会議所、経済同友会、  
全国商工会連合会、電気事業連合会、東京電力ホールディングス株式会社

参加者数：48名

プログラム：

（1）映像（DVD「地層処分とは」）

（2）説明 専門家、NUMO職員

■専門家（敬称略）

佐藤 治夫（岡山大学准教授）

竹内 真司（日本大学准教授）

（3）質疑応答（主な内容）

Q. 現在のガラス固化体は、どこに何本あるのか。

A. H28.3時点でガラス固化体は約2,300本あり、東海村のJAEAに256本、六ヶ所村の高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターに2,044本ある。

Q. 海外でも地層処分を進める国々があり、日本より進んでいるところもあるとのことだが、NUMOは海外の事業者と情報交換は行っているのか。

A. 地層処分事業を行う各国の事業主体と協力協定を結び、情報交換等を行い、新たな知見等の取得等に努めている。近く公表する包括的技術報告書にも、そのような協力に基づく成果が含まれている。

Q. 以前、新聞で海底下処分の記事を見た。先ほどの説明の中ではロンドン条約の問題があると言っていたが、海底下に処分できるのか。

A. ロンドン条約は船舶（海面）から廃棄物を海洋底に投棄することが禁止されている。一方で、沿岸部では海底下に建設することは可能である。これは「沿岸海底下処分」と言って、陸から海の下に孔を掘って処分する方法であり、安定した地層であれば処分できる。

Q. 輸送時の安全対策はどう考えているか。

A. 輸送中の事故が発生しても放射性物質が漏れ出さないような対策はもちろんしているが、安全性を確保するために、輸送距離をできるだけ短くすることも重要である。港湾から20km程度が望ましいと考えている。

Q. 火山などを避けると平野部が好ましいと考えるが、平野部には人がたくさんいる。そういう場所でも地層処分をして大丈夫なのか。

A. 処分地については施設を建設できる広さや、地層が安定した場所であれば建設は可能である。

Q. 閉鎖後も監視するのか。

A. 閉鎖後の安全性は、モニタリングを含む閉鎖後の管理に依存しないことが地層処分の考え方であるため、技術的には閉鎖後も管理を行うことは不要であると考えますが、地域の皆さまに安心して生活していただくために、地域の方々と相談しながら対応を図っていく。

Q. 事業費3.7兆円の出処は。

A. 皆様に電気料金の一部としてご負担いただき、電力会社等からNUMOに拠出金として納付いただいている。

Q. 地層処分のリスクは。

A. 長期間のうちに想定される処分場の状態をシナリオとして描き、コンピューターで予測計算を行って影響を推定する。こんなことはありえないとは思いますが、例えば、処分後1000年でオーバーパックが腐食によって破損し、ガラス固化体に閉じ込めた放射性物質が地下水に溶け出した場合でも被ばく線量がわずかなものであることを示した例。このように様々なシナリオを挙げ、それぞれ計算を行って安全であることを確かめる。

- Q. 科学的有望地の提示が遅れたのはなぜか。
- A. 昨年10月に原子力委員会から国民皆さまのご意見も踏まえ、注意深い要件の設定や説明の表現の慎重な検討が必要との指摘があったことを踏まえ、審議会で丁寧な議論を継続しているためと聞いている。
- Q. 地層処分事業を進めるのに一番難しいのは知事や市長村の意見を聞き、同意を得るところだと思うが、スムーズに進めるには地域の人たちの理解を得ることが必要ではないか。
- A. 地域の方々にまずは地層処分事業を知っていただき、それから、地層処分場ができる事によるメリット、デメリットなどを今回のような対話活動を通じて説明していきたい。当該市町村だけではなく、周りの市町村や県に理解活動を行い、まずは冷静に議論していただける環境をつくる必要がある。
- Q. 処分場を設置するのは300m以深という説明だったが、どの位の深さを想定しているのか。
- A. 300mという数字は、諸外国における深度に関する検討状況等を考慮したうえで、法律で定められた数字である。法律では300m以深とされており、それを何メートルにするのかは、建設される地点によって異なるため、個別に調査した上で設定されることになる。
- Q. 今回のような説明はこれまで、どのくらい実施しているのか。
- A. 昨年度は春と秋に9回ずつ、今年度は春に9回、7～10月に17回、10～11月に9回、2月からは2回実施した。

○その他意見

- ・地層処分には賛成だが、スケジュールや場所の選定がネックだと思う。
- ・現代人にとって電気は欠かせず、原子力が一番効率がよい。他のゴミと同様に日本で使って出たゴミは、国内で処理するのが当然で、前向きに検討すべき。
- ・地層処分に係る技術は確立していることは理解したが、その技術を運用するのは人間であり、その専門家と一般国民との信頼関係が重要。

以 上